

ゼロヨン
in 仙台ハイランド

やっぱり
走り屋チューナー。
ゼンコンは超お得意
でひとときわ熱い!

価格：トライアル(11,580)

準優勝：マイナズ(1) 950



3位決定戦 (エスプリはエンジントラブルでリタイア)
ガレージ福岡 (12.310 : 3位) vs HKS関西 (13.395 : 4位)

5位決定戦

新装オフィスのレイブロス戦について

タイム的にはレイブロスの勝ちだが、今回はリアクションタイム+ゼロダウンタイムでの合計タイム（つまり、どっちが早くゴールラインを踏むかの単純勝負）が勝敗を決定する。

5位：東オフィス(14.040)

	リアクション タイム	ゼロヨン タイム	総合タイム (単位=秒)
垂オフィス	1.161	+ 14.318	= 15.479
レイブロス	1.255	+ 14.283	= 15.548

と、いうわけで、全オフィスの勝ち。
これがサドンデス・トーナメント方式のダイ
ゴ味だ！

第一戦を順調に消化して、残ったのはマインズ(シード)、HKS、関西、ガレージ播井、エスプリ、トライアルの5台。いずれもステージ3開始前から、勝ち残りが予想されたメンバーだ。

ガレージ播井MR2 vs エスプリ・シルビア。実は播井のMR2正式車名は、GARAGE播井SPL打倒シルビア号。というのだ! 「あまりにメジャーで、軽くチューニングすればすぐハイパワーになって、街にあふれているシルビアにこのMR2で喝を食らわす」と横山さんが言う開発コンセプト(?)のこのMR2、エスプリのシルビアや圭オフィス・

の日本ドラッグレースウェイを信じてのゼロヨンバトル。

ところで、今回のステージ3、ゼロヨンにはトーナメント方式を採用。だって、絶対的なタイムで競つたらGTRが有利。それじゃつまらないヨってことで、クルマのポテンシャルアドライバーの精神的かけひきをも加えた、激しいバトルが期待できるトーナメント方式に決定。予選は、単純に、トーナメントの枠順を決めるためのモノだ。

各車一回ずつの予選走行を終えて、トップタイム(11秒79)をたたき出したマインズがシードに。

ステージ3は、仙台ハイランド

ここで、なんとエスプリ前川は熱くなり、痛恨のエンジントラブル。そして、誠に残念ながら、そのままキャンボンボールからもリタイアとなってしまふ。

第3回戦は、ガレージ福井MR2 vs トライアルGTR。マッキー牧原が勝ちを得るが、12秒342でゴールしたガレージ福井MR2には誰もがビックリ、ゼロヨン／最高速に賭けた福井・横山、氣迫勝ち／終始気が抜けている表情とは裏腹だ。

決勝戦。やはり、GTRの2台が勝ち残る。マインズ新倉は、ブースト庄をひそひそとアップ。マッキー牧原は決勝にウォーターインジェクションシステムを初めてする。最終兵器を出す。

言う。

スタートに気を使ったエスプリ前川、6000rpmから慎重にクラッチミートさせるが、タイヤが軽く空転する。一方のガレージ福井横山は打倒シルビアの思いが強すぎたか、アクセルを開けすぎたようだ。リヤを振りながらのスタート。が、ブーストがかかって車速が乗ると、速いノドギューンと、白い弾丸がコースを疾走。エスプリも十分に速いのだが、ガレージ福井MR2の速さには度肝を抜かれた。結局、ガレージ福井MR2が12秒76で勝って次へとコマを進めた。

シルビアには絶対負けられないと

ライトチューン
のS14は
5位満足大満足!

生オフィス・シルビア：第1戦でホイール
スピンからタイムを落とした北原さん。5
位決定戦ではこの反省から、4000rpmでワ
ラッチをつないでいたのを3000rpmまで
落としてチャレンジ。リアクションタイム
も短くなって、5位入賞となった。

h、タイムは11・560秒で優勝
ヒルクライムに続いて連勝のト
ライアル。マッキー牧原は「なん
つうの？　もう、優勝には慣れち
やったカンジかな」と余裕発言II
予想通りのGTR優勝で幕を
閉じたゼロヨンだったが、予想外
だったのがガレージ福井MR2。
やはり、駆動輪に荷重をかけやす
いミッドシップの利点を活かして
大健闘。トラクションがかかれば
同じく有利な4WD勢に対しても
がぜん、パワーの差を見せつけら
れるというわけだ。このガレージ
福井MR2の、鋭い加速は印象的
だったね。

マインズGT-Rは、今までより1000rpm高い6500rpmでクラッチをミート。スタートには成功したが、2速に入れた後パワーをかけ過ぎ、クラッチが高回転で滑り、イッ気には8500rpmまで回ったエンジンにレブが作動。車速がグリーンと落ちた。それを尻目にトライアルGT-Rが車速を乗せ、終速で196.76km/h

